

# 集落農場型の集落営農を基盤として法人化し、地域の担い手として位置づけ(福島県白河市入方地区)

話合い  
の工夫

法人化

## 地域の概要

白河市中心部からやや東部に位置する中山間的な土地条件の集落。標高は約320m、土質は粘土質のため市内でも有数の良食米の産地。耕地面積51ha、農家数29戸、農家の平均年齢64.1歳。

## 取組の成果

- 担い手への集積率:[取組前(H24)] 31%⇒[取組後(H28.3)] 54%
- 目的が異なる農業振興3組織を母体として農事組合法人を設立し、地域の担い手として位置づけ



## 取組のポイント

### 関係機関が連携した取組(先進地研修、座談会、アンケート調査)

「集落営農は住民全員で守る」という理念の下、農業振興3組織(機械利用組合、農事研究会、集落営農組合)を母体として法人を設立するに当たり、**関係機関(県、市、JA)が連携して、先進地研修や座談会、アンケート調査を実施**し、法人設立準備委員会を開催した。

また、新技術(直播・養液ミニトマト)の栽培技術支援も併せて実施し、説明会を実施する等農家の経営意欲に維持・向上を図った。



入方ファームによる  
視察研修の受け入れ

### 集落ぐるみ型の農事組合法人設立

- ・プランのエリア内2集落のうち1集落内の農家24戸全戸が参画し、平成27年7月、集落ぐるみ型の「(農)入方ファーム」を設立し、**地区内の担い手を確保するとともに、周辺地区の農地についても作業受託するなど、地域の担い手としての位置づけ**が進んでいる。
- ・経営面積 28ha(水稻24.5ha、大豆3.6ha、トマト8a)